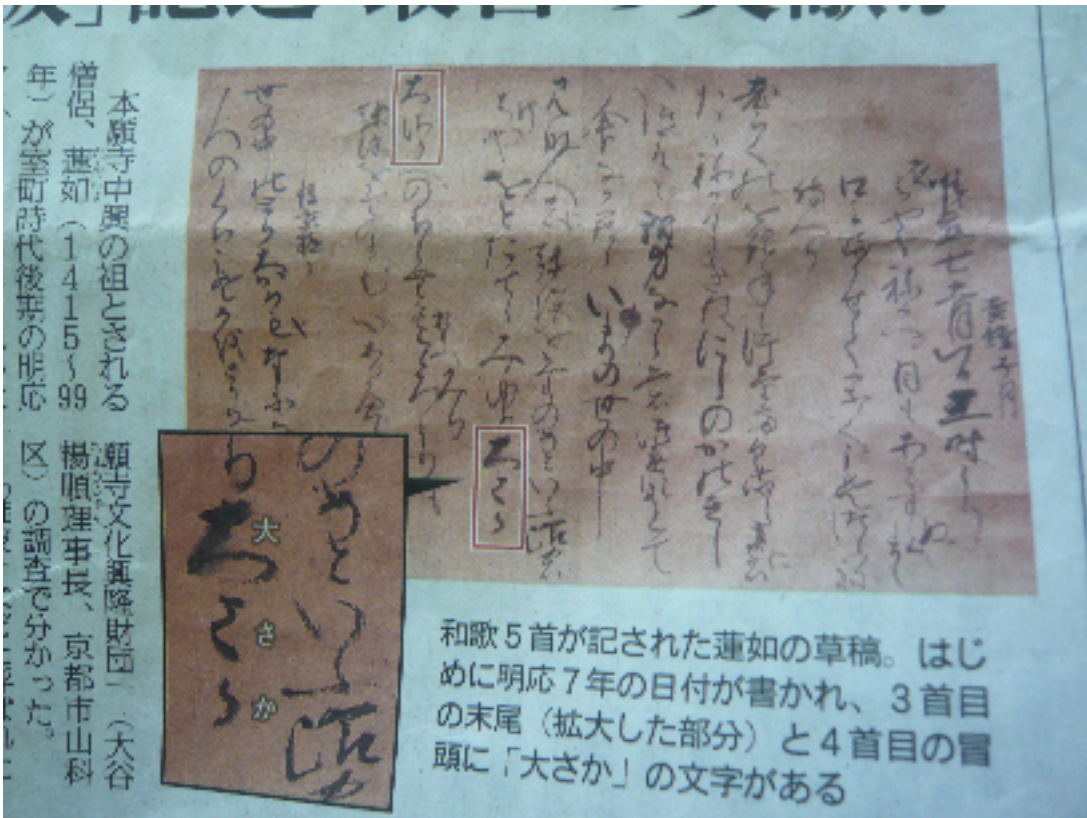


西光寺だより

第九十四号 平成三〇年六月一日発行

●今月のことば●



この記事は、ご門徒さんから情報をいただきまして載せさせていただきました。私たちが今住んでいるこの大阪。その「大阪」についての記述が最古の文献かという記事であります。

本願寺中興の祖とされる僧侶、蓮如（一四一五～一四九九年）が室町時代後期の明応七（一四九八）年に記した和歌の草稿が、「大さか」という地名を記す最古の文献とみられることが四月十九日、所蔵する一般財団法人「本願寺文化興隆財団」（大谷暢順理事長、京都市山科区）の調査で分かった。

「難波」などと呼ばれたそれまでの地名から、現在につながる「大坂（大阪）」の地名が定着していく経緯を探る史料の一つとして、注目を集めそう

だ。
草稿は平成二十三年に財団が古美術商から購入。和歌五首のうち、信心の大切さを詠んだ

「みな人の弥陀をたのめといふ浪のはやをとたて、みゆる大さか」
など、二首に「大さか」の文字がある。筆者名はないが、専門家の鑑定で、筆跡などから蓮如自筆と判定された。

草稿の日付は、明応七年十一月八日。大阪という地名は文献上、蓮如が明応六年十一月に信徒らに向けて発した「御文章」などと呼ばれる手紙の文中にある「大坂」が初出とされるが、自筆の原本は未確認で、写本のみが残る。財団によると、確認されている写本は、息子の実如の時代に編纂されたとみられる本が最古。大阪という地名を記した文献の成立年代としては、草稿が写本より古いと判断した。

蓮如は明応八年三月に死去。和歌には推敲の跡があり、財団の藤田香奈子学芸員は「最晩年に書かれた草稿だが、創意工夫を怠らない、蓮如上人の性格が表れている」と話す。

草稿は、同財団の吉崎御坊蓮如上人記念館（福井県あわら市）で四月二十一日～七月二十八日に行われる、特別展で展示される。

と締められ終わっています。

そして、今回の蓮如上人と「大阪」について少しふれてみたいと思います。

この蓮如上人は中興の祖といわれるように、宗祖親鸞聖人と並んで、私たち浄土真宗にとってとても大切な方であるとともに、大阪人にとっても恩人であります。

記事にもありましたように、蓮如上人の「御文章」（大坂建立章）に
当国摂州東成郡生玉の庄内大坂といふ在所は、往古よりいかなる約束のありけるにや

とあり、「大坂」という地名が最初にあらわれた文献が、この『御文章』だといわれていました。しかしこの度の記事にあるように自筆のもので最古のものが今回の草稿と位置づけられました。

この「大坂」の地名が現在の大阪城のあたりであり、明応五年（一四九六）に蓮如はここに大坂御坊（いわゆる石山本願寺）を建立されました。当時京都の山科にあった本願寺が、その後、六角定頼と日蓮衆徒らに焼かれたため、本願寺をこの大坂の地に移すことになりました。するとたちまち本願寺を中心として、主に商工業者等の町人による、二〇〇〇軒をこす家屋の集まった、寺内町という一つの都市が造られました。これが大阪の都市化の最初であります。

その後、戦国時代には信長と本願寺は十年におよぶ戦争を繰り広げ、ついに本願寺は退去しました。それから約十年、天正十九年（一五九一）に、秀吉が京都六条に寺地を寄進して建立せられたのが、今の西本願寺であります。

大阪冬の陣、夏の陣で焼きはらわれた大阪の町が、**北御堂**（津村別院）、**南御堂**（難波別院）を中心として復興され、それより商都として繁栄し、今では北と南の両御堂を結ぶ**御堂筋**が、その動脈として息づいています。

このように蓮如上人は、真宗の流れに浴する私達にとって大切なお方であると共に、今日の商都、国際都市としての大阪の地を最初に見いだされた点で、大阪人の偉大な恩人でもあります。（『光寿』）

※大阪の由来

古くは「難波」「浪速」という表記で、「なにわ」「なみはや」などと呼ばれていた。十四世紀の文献には「小坂（おさか）」の記述がある。蓮如が大坂に大坂御坊を建立し広がり、「大阪」の表記は江戸時代には浸透、明治以降に定着した。

漢字表記は当初「大坂」が一般的であったが、大坂の「坂」の字を分解すると「土に反る」と読めて縁起が悪いとか、「土が反する」すなわち土族の反乱と読めることから「大阪」になったともいわれ、諸説あるようだ。

◆先月の報告◆

五月十三日（日）午後七時より西光寺本堂にて西光寺講総会を行いました。

四月の総代会・役員会を経て、皆さんご審議をいただきまして、西光寺講員の皆様にご報告させていただき、賛成の拍手で無事終了となりました。

この度、長い間総代として活躍いただきました、寺田一雄様、吉田紀夫様。これからは顧問として見守って頂けたら幸甚であります。本当にありがとうございます。

そして新議長として毎川哲夫様を講代表として選出されましたこと、ここにご報告させて頂き、新・旧総代、新・旧役員の皆様、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>